

巻頭言

法輪について

仏教文化研究所編集委員

蜷川祥美

建学の精神を伝える必修授業で、釈尊の転法輪についてお話をしています。釈尊が説法をなさったことを「転法輪（法輪を転じた）」と表現することを説明しているのです。

『岩波仏教辞典』には、法輪について「S: dharmacakra 仏の教え。仏が教えを説くことを「転法輪」という。cakra は戦車の車輪、古代インドの円盤形の武器、または支配領域を意味し、釈尊の説いた法(dharma) が威光をもって人から人へ遙かに広まることを喩えていると解釈される」と述べています。

ところで、仏教徒が、車輪をかたどった標章を、釈尊の説かれた法（教え）を象徴するものとして法輪と呼んでいることは、多くの方がご存じのことであろうと思っていました。

授業で転法輪について一通り解説を行った後に、「法輪を見たことがある人は挙手をしてください」と学生に聞いてみることにしています。私は七クラスの授業を担当していますが、挙手をしてくれる学生は、一クラスに二〜三名です。確認した後、「それでは、このテキストの裏表紙を見てください。これが法輪

です。これは、本館の上部にも掲げられています」と紹介します。必修科目のテキストに、あえて解説を施すことなく法輪を印刷していますし、本学の羽島・岐阜の二キャンパスともに、本館と称する建物に法輪を掲げているのです。そのように伝えた授業の感想には、「あのマークが法輪であることを、はじめて知りました。船の操舵輪だと思っていました」などという言葉が記されていたこともあります。

これは、平成十八年八月二十、二十一日の両日にわたって行われた第八十八回全国高等学校野球選手権の決勝戦のテレビ放送を見ていた時のことです。いまだに忘れられない言葉を聞きました。その試合は、早稲田実業高等学校と駒澤大学附属苫小牧高校が対戦していました。駒澤大学附属苫小牧高等学校は、仏教系の高等学校です。現在、ニューヨーク・ Yankees で活躍している田中将大さんがエースでしたが、彼の着ていたユニフォームの右袖には北海道の地図が、左袖には法輪が描かれていました。私がそのことに気づいて「さすがに仏教系の高等学校だな」と感心した瞬間、テレビ放送を担当したアナウンサーが、「さすがに北海道の高校ですね。ユニフォームの袖に、雪の結晶のマークがありますね」と言ったのです。ちなみに、この発言は、しばらくして訂正されました。

仏教系の学園の多くが、校章に法輪を用いています。仏教の教えを象徴するマークとして掲げているわけですが、船の操舵輪や雪の結晶というように間違われて認識されているかもしれないことは残念なことです。

しかしながら、私自身も法輪について、正確に学生の皆さんにお伝えできているのかと問われれば、甚だあやしいものです。法輪とは、仏教の教えを象徴するものですが、その内容とはいかなるものなのでしょうか。

このことについて、『望月佛教大辞典』には、『大毘婆沙論』によると、説一切有部の説として、法輪は

見道以上の修行者が実践する八支聖道であると説明され、『大乘法苑義林章』によると、大衆部や大乘仏教の説として、法輪は一切の仏語であると説明されています。私の力量では、八支聖道や一切の仏語の内容を正確にお伝えすることなどできようはずありません。

法輪というマーク、言葉には深い意味が込められています。それを正しく伝えることができているのか、それが正しく理解されているのか。私どもが論文などで、言葉を用いて表現しようとしている仏教の教えについても、同様の課題があるように思います。これは、常に問い続けるべきことではないのだろうかと考えます。

『岐阜聖徳学園大学仏教文化研究所紀要』第十五号をお届けします。ご執筆賜りました諸先生方に御礼申し上げますとともに、法義相統の念をもってご高覧賜りますようお願い申し上げます。

平成二十七年（二〇一五年）四月三十日

